

北海道社会科研究

「子どもたちが未来を創る基礎を育むために」

北海道社会科教育連盟 委員長 太田 和幸
(札幌市立西岡北中学校長)



昨年度に引き続き、委員長を務めさせていただきます、札幌市立西岡北中学校長 太田和幸でございます。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、5月9日の道社連総会におきまして、今年度の事業計画等を確認いたしました。今年度は、10月30日（金）に釧路地区におきまして第81回 北海道社会科教育研究大会を開催いたします。本年は新しい研究主題「社会と向き合い、問い続ける北国の子の育成」のもと、3か年継続研究のスタートの年となります。

大会当日は、文部科学省より小倉 勝登 教科調査官に御来道いただき、大会における公開授業ならびに1年目の研究についての御教示・御批正をいただけるものと期待しております。釧路地区の皆様には多大な御負担をおかけすることと存じますが、これからの北海道の社会科を創る大きな一日となるよう、よろしくお願いいたします。また、全道各地の会員の皆様におかれましても、多くの御参会をいただけますようお願い申し上げます。

昨今、様々なところで「社会の劇的な変化と混迷、先行き不透明な時代」などの言葉で現代社会を論じていますが、言葉以上に世界の変化は必ずしも良い方向に進んでいるとは言えない状況にあります。ロシアーウクライナの戦争は世界の食糧事情を大きく左右し、アメリカーイランの紛争は世界のエネルギーと生活物資全般の事情を大きく左右しています。遠い国の紛争が子どもたちの生活に直接つながっていることを実感させられています。

このような時代にあって、私たち社会科の教師は、今の時代をどのように捉え、子どもたちにどのような学びを用意すべきなのか。当然、簡単に答えの出るものではありませんが、子どもたちが自分の未来を見据え、自分の力で進んでいく基礎を育むことは不可欠です。新たな研究主題の中に「問い続ける」という言葉があります。子どもたち一人一人が進み続ける社会を見つめ、そこに見られる様々な課題を自分自身の身に関わることとして捉え、よりよい社会に向けて考え続けていく力を育てる、真正で継続性のある学びをいかに創っていくのか。

くしくも、新3か年研究は学習指導要領の改訂とともに進めていくこととなります。全道各地の皆様の様々な取組を、10月に釧路の地に結集させ大いに学び合うとともに、目の前の授業一時間一時間を質の高いものとしていくべき、北海道の社会科の仲間たちが心をつなげて今年度の研究を進めていくことを願っております。今年度1年間、どうぞよろしくお願いいたします。

令和8年度 北海道社会科教育連盟 総会

新研究の活動スタート

社会と向き合い、問い続ける北国の子の育成

令和8年5月9日（土）、令和8年度北海道社会科教育連盟総会が道民活動センタービル「かでる2・7」にて開催されました。新研究内容の共有と各地域の活動の充実を図るため、札幌地区をはじめ、全道各地区の代表者が参加し、討議を行いました。

〈総会〉

総会では、道社連事務局次長 菅原 隆司先生の司会により議事が進行され、令和7年度の事業報告・決算報告・会計監査報告と、令和8年度の事業計画・予算案についての提案が行われ、承認されました。続いて、道社連研究部長 宮崎 世司先生から、旭川大会での成果と課題を基に、新研究テーマ「重点1. 子どもから問いが生まれる单元デザイン 重点2. 社会的事象の特色や意味を考える1時間 重点3. 社会に見られる課題に向き合う1時間」についての提案がなされました。「オール北海道で共に創り上げていきたい。」という熱いメッセージがあり、全道が一丸となって共に進んでいく研究の方向性が示されました。

続いて各地区交流が行われ、令和7年度のそれぞれの地区における授業実践をもとにした研究や、活動の充実を図るための各地区の工夫などについて説明がありました。学習会や研修会、研究会、新会員獲得に向けた取組と組織力強化等、全道各地で社会科の研究を推進する報告がなされました。また、今年度、第81回北海道社会科教育研究大会釧路大会における授業者や開催要項等が示されました。

最後に、道社連副委員長 田丸 明史先生から、この時期に全道より総会に集まる意義、全道各地区での繋がり、何よりも子どもたちの学びやそれを支える身近な方々の健康をより一層大切にしてほしいとの激励の挨拶があり、総会は閉会しました。

令和8年度 北海道社会科教育連盟役員

委員長	太田 和幸	札幌市立西岡北中学校	再
副委員長	田村 貴史	旭川市立北鎮小学校	新
副委員長	小川 一法	釧路市立中央小学校	再
副委員長	田上 悟	函館市立青柳小学校	再
副委員長	葛西 統実	余市町立沢町小学校	再
副委員長	蟹谷 正宏	愛別町教育委員会	再
副委員長	石川 篤司	札幌市立二条小学校	再
副委員長	大畑 秀樹	札幌市立中沼小学校	再
副委員長	佐野 浩志	札幌市立桑園小学校	新
副委員長	田丸 明史	札幌市立発寒中学校	再
副委員長	長尾 美保子	札幌市立福井野中学校	再
会 計	高梨 康人	札幌市立星置東小学校	再
監 査	塚田 崇	留萌市立潮静小学校	再
監 査	原 健一	標津町立標津小学校	新

全 道 各 地 区 交 流

《旭川地区》 佐藤 太一 旭川市教育研究会社会科研究部 研究部長

旭川大会を皆様の御協力のおかげで無事に終えることができた。成果と課題をもとに、道大会後も更に研修を重ねることで、授業研鑽をすることができ、有意義な活動となった。

《網走地区》 鈴木 航 網走地区社会科教育研究会 研究部長

昨年度も、研究授業公開や実践発表会を積極的に行うことができた。また、会員外向け学習会を行うことで、会の活動や社会科の授業づくりについて発信をすることができた。

《胆振地区》 細部 善友 胆振社会科教育連盟 事務局長

会員数が減少しているが、有志の会員により、勉強会が定期的開催されるなど、精力的な活動の芽も見られる。「夏の実践交流会」等を通して、会員の学びを支え、新規会員等の獲得に力を入れたい。

《渡島地区》 炬口 毅充 渡島社会科教育研究会 事務局長

新規会員の加入の大幅な減少等がある。魅力ある、持続可能な研究会に向けた取組を試行錯誤しながら、各校の働き方改革とのバランスをとりながら新規加入を推進した活動をしていきたい。

《上川地区》 伊藤 旭人 上川地区社会科教育連盟 小学校研究部長

昨年度の成果と課題をもとに、3年次計画の研究主題「社会とつながり、自ら考える子どもの育成」の3年目をスタートさせた。夏季研修会、公開授業等を通して、今後も実践的な研修を進めていきたい。

《釧路地区》 山口 直樹 釧路地方社会科教育研究会 事務局長

昨年度も定期総会、夏季研修会、研究授業、冬季研修会等で有意義な時間になった。令和8年度全道大会釧路大会の日程を10月30日（金）に設定し、授業者・協力者・助言者の選定も行った。

《札幌地区》 野崎 猛 札幌市社会科教育連盟 事務局長

昨年度も社会科教育研究大会を開催した。また、セミナーや人材育成・組織活性化プロジェクトの研修会も行った。今年度は、釧路大会に向けた取組や持続可能な連盟の在り方を考えていきたい。

《後志地区》 岡村 真哉 後志社会科研究協議会 事務局長

昨年度は、夏季学習会、冬季学習会等を行った。冬季学習会では、札幌国際大学の朝倉一民教授を講師に招き、「これからの社会科授業の在り方」について講演をいただいた。

《空知地区》 福井 雄也 空知社会科教育研究会 事務局長

昨年度は、各学校で「ICTの有効活用を主眼においた授業展開」「複線型学習・自由進度学習の可能性を探る構成」等、あらゆる実践を積み重ねた。今年度も、公開授業や実践共有の場を設けたい。

《十勝帯広地区》 新津 貴裕 十勝帯広社会科教育研究会 会長

昨年度も、総会・学習会等を行い、研究テーマに向けて研鑽をした。特に、冬季学習会では、帝国書院の三國一文様を講師に招き、地図帳の活用法、授業に活用できる技を教えていただいた。

《函館地区》 阿部 聖 函館市小学校社会科教育研究会 幹事長

前回の函館大会より、歴史を学習する視点や学んだことを記録し活用する一覧シートを用いた授業づくりに引き続き取り組んだ。渡島地区と函館市中学校社会科研究会との統合に向けて準備をしていく。

《檜山地区》 藤田 淳也 檜山社会科教育研究会 事務局長

昨年度は、新規会員も増え、各町教研研究会に協力を依頼し、5回の授業実践及び研究・交流を行うことができた。今後も授業づくりの悩み等を共有し合い、情報提供等をしたい。

《留萌地区》 本山 裕一 留萌地方社会科教育研究会 事務局長

昨年度は、道社連事務局長の石川円校長先生を招いて夏季研修会を行い、授業構築の進め方等を御示唆いただいた。第38回留萌地方社会科研究大会も行い、少数精鋭ながら今後につながる実践となった。

《根室地区》 原 健一 根室管内社会科教育研究会 会長

昨年度は、「社会科授業改善セミナー」「中学校社会科授業公開研究会」の2回の繋がりが見える研修により、授業改善が進むとともに、人と人との繋がりや各実践の繋がりが深まった。

《石狩地区》（地区活動だより）より

各市町村とも研究組織が整備され、研究実践への取組も充実発展してきている。また、部会内で「管内社会科副読本協議会」を設置し、共有化できそうな单元について情報交換も行っている。

研究主題 「社会と向き合い、問い続ける北国の子の育成」

研究副主題 ～確かな知識を根拠に、よりよい社会の在り方を志向する社会科の学び～

北海道社会科教育連盟研究部長 宮崎 世司（札幌市立八軒西小学校）

昨年度までの研究を引き継ぎ、新たな研究がスタートしました。

前3か年の研究においては、単元デザインについての理解を深めるとともに、単元の後半における新たな価値を創造する1時間を重点的に取り組むことで、たくさんの成果があげられました。

今年度からの研究は、その成果を土台にしていきながら、現学習指導要領における実施状況調査を踏まえた集大成にしていきたいと考えております。

研究主題「社会と向き合い、問い続ける北国の子の育成」には、社会の一員としての自覚をもち、社会的事象や他者と向き合い、社会に見られる課題や未来について、より自分事として考える姿をねらっています。その過程で、自ら問いをもって考える姿が生まれるように、教師が単元に意図を潜ませていくことが重要となっていきます。そうすることで、学びを積み重ねる中で確かな知識を身に付け、未来を志向する子どもたちが育まれると考えています。

変化が激しく、予測困難な時代の中を生き抜くために、個々の能力を最大化し、社会変革に応じて挑戦できる力を養う総合的学びの場としての教育が求められています。これまでの実践を経て、子どもたちの社会科への姿勢は、前向きな状況になっているとされています。だからこそ、今取り組んでいることを継続しつつ、未来に向けて志向する子どもたちを皆さんと共に育てていきたいです。

研究主題、副主題を実現するために、3つの手立てを設定しました。ここで重要なキーワードは「問い」であると考えます。教師が与えるのではなく、子どもから問いが生まれるように関わっていく。いかに教師の意図を単元に潜ませていくかが重要となります。ぜひ、各地区で検討を進め実践していただければと思います。また、実践報告だけではなく、検討経過や研修など、学びの共有も活性化していきたいと考えております。各地区の取組を随時発信し、いつでも交流できる北海道

**研究主題、研究副主題の実現に向けた
3つの手立て****手立てⅠ****子どもから問いが生まれる単元デザイン**

＜具体的な手立ての例＞

- ・初発の思考や行動を起こしたくなる資料の精選
- ・学習計画から単元の本質を迫るための構成の工夫
- ・社会に見られる課題を多面的・多角的に捉え、社会への関わり方を選択・判断したくなる場の設定や授業構成の工夫

手立てⅡ**社会的事象の特色や意味を考える1時間**

＜具体的な手立ての例＞

- ・「〇〇のはずなのに、なぜ」という問いが生まれる構成の工夫
- ・確かな根拠をもって考え、説明するための場の設定
- ・収集した情報を文章や図、表などで整理し生かす場活動の充実
- ・資料を吟味し、自分の考えに生かす活動の充実

手立てⅢ**社会に見られる課題に向き合う1時間**

＜具体的な手立ての例＞

- ・現実的な状況の中で、児童生徒が様々な知識や技能を総合して取り組むことが考えられる場面や振り返りの場の設定
- ・社会との関わり方について選択・判断する活動
- ・社会の発展について多面的・多角的に考える活動
- ・課題解決に向けた広い視野から構想する活動
- ・合意形成や社会参画を視野に入れた議論する活動

社会科教育連盟としていきたいです。御協力よろしく願いいたします。

最後に、忘れてはならないのが、次期学習指導要領の動きが今まさに活発化しているということです。ワーキンググループの内容や今後提示される情報などを適宜把握し、私たち教師も未来に向けて志向していくことが必須となります。

令和8年10月30日（金）、釧路大会が開催されます。これまでの成果を交流し、次代に結び付ける重要な大会となります。オール北海道で共に創り上げ、北海道から社会科教育を全国に発信していきましょう。

【研究主題】

社会と向き合い、問い続ける北国の子の育成

【副主題】確かな知識を根拠に、よりよい社会の在り方を志向する社会科の学び

中学校部会 研究部長 齋藤 政人（釧路市立幣舞中学校）

■主題設定について

急速に変化し予測が困難な現代において、子どもたちには、社会の変化に主体的に向き合い、他者と協働して課題を解決していく力が求められています。学習指導要領においても、社会的な見方・考え方を働かせ、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度の育成が重視されています。そこで本研究会では、北海道社会科教育連盟の研究の方向性を継承し、「確かな知識を根拠に、よりよい社会の在り方を志向する社会科の学び」を追究します。生徒が社会に見られる課題を自分事として捉え、常に問い続けることができるよう、以下の三つの視点から授業改善を図ります。

■研究の視点

- 1 子どもから問いが生まれる単元デザイン
- 2 社会的事象の特色や意味を考える一時間
- 3 社会に見られる課題に向き合う一時間

■研究の視点 1

【子どもから問いが生まれる単元デザイン】

生徒が主体的に学びを進めるためには、学習課題を把握し、解決への見通しをもつことが重要です。本研究では、初発の思考や行動を起こしたくなる資料を精選し、「学習問題をつかむ問い」への仕掛けを工夫し

ます。また、学習計画から単元の本質に迫り、入口から出口までを見通した単元構成にすることで、生徒自身が解決したいと思える課題設定を促し、学びへの主体性を高めます。

■研究の視点 2

【社会的事象の特色や意味を考える一時間】

各分野の特質に応じた見方・考え方を働かせ、社会的事象の意味や意義を深く理解する学習を重視します。授業内では、「〇〇のはずなのに、なぜ」という新たな問いが生まれる構成を潜ませます。また、収集した情報を図表や文章に整理・関連付け、確かな根拠をもって論理的に考え、説明するための場を設定します。これにより、事象を多面的・多角的に考察する力を育成します。

■研究の視点 3

【社会に見られる課題に向き合う一時間】

社会に見られる課題を把握し、その解決に向けて構想する力を養います。現実的な状況の中で、生徒が知識や技能を総合して取り組む場面や振り返りの場を設定します。そして、社会への関わり方を選択・判断し、たくなる授業構成を工夫し、合意形成や社会参画を視野に入れた議論を行います。課題解決に向けた広い視野からの構想を通して、よりよい社会の発展について多角的に考える態度を育みます。

第8 | 回北海道社会科教育研究大会釧路大会

公開授業の概要

小学3年 単元名「工場ではたらく人と仕事」

本単元では、釧路の基幹産業である「水産加工品『いくら』を作る仕事」について学習します。地域に生きる一員として、地域への関心を高め、特産物の生産に関わる人々の営みに誇りを持ち、生産の仕事が地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることに気付かせる授業を目指します。

授業者

釧路市立大楽毛学園

秋田 理玖



小学4年 単元名「昔から今へと続くまちづくり」

本単元では、釧路湿原とそこを流れる新釧路川を教材に湿原を賢く利用し、保全してきた人々の営みを学習します。本時では、これからの釧路湿原の姿や関わり方について深く考えます。子供たちが現代社会に見られる様々な課題に対して主体的に向き合い、お互いの意見を交わして活発に議論する時間を目指します。

授業者

釧路市立清明小学校

江渡 明香



小学5年 単元名「日本の工業生産の今と未来」

本単元では、我が国の工業の現状や特色について学習します。本時は、単元の終末として地元の企業を通して社会に見られる課題に向き合う一時間を提案します。子供たちが生産者や消費者の立場から多角的に考察し、これからの工業の発展に向けて主体的に考え、議論を深める授業を目指します。

授業者

釧路市立釧路小学校

工藤 崇之



小学6年 単元名「明治の新しい国づくり」

本単元では、江戸時代に代わり、明治新政府が何を目指して新しい国づくりを行ってきたのかを学習します。単元を通じた学習の中で、明治政府の政策と北海道の開拓の関連について捉えることで、本時では子供たちが自分事として主体的に学ぶことができるような授業を目指します。

授業者

釧路市立青葉小学校

本間 羅菜



中学地理 単元名「中国・四国地方」

中国・四国地方は、瀬戸内と山陰・南四国の間で人口の分布に大きな差がみられる地域です。中国山地や四国山地の山間部では、人口減少への対応として全国に先駆けて地域おこしの取組が行われてきました。そうした取組の「いま」に着目することで、新たなまちづくりのかたちを考える「深める問い」を立てる授業を目指します。

授業者

附属釧路義務教育学校後期課程

澤田 康介



中学歴史 単元名「明治維新と立憲国家への歩み」

新しい日本の幕開けである明治時代は、260年以上続いた安定政権の江戸幕府とは異なり、短期間で急激な変革と変換を遂げました。大きな変革を遂げたからこそ、人の見方によって時代の評価は分かれるため、現代を生きる私たちが、明治時代の様々な政策を再評価し、未来につなげる授業を目指します。

授業者

釧路市立鳥取西中学校

細野 歩



中学公民 単元名「地方自治と住民の参加」

釧路市の課題とは何か。よりよい地域社会の形成に向けて、「地方自治」の仕組みや財政の知識を獲得し、地域の具体的な課題について多面的・多角的に考察します。さらに「対立と合意」「効率と公正」の視点を踏まえ、主権者として「市長へのポスト」に提案するとともに、生徒一人一人が選択・判断する議論を展開する授業を目指します。



授業者

釧路市立春採中学校

阿波 亮太

第81回 北海道社会科教育研究大会 釧路大会

研究主題

【令和8・9・10年度 3か年継続研究主題】

社会と向き合い、問い続ける北国の子の育成

～確かな知識を根拠に、よりよい社会の在り方を志向する社会科の学び～

1. 主 催 北海道社会科教育連盟
2. 主 管 釧路地方社会科教育研究会
3. 後 援 北海道教育委員会 釧路管内町村教育委員会連絡協議会
 釧路市教育委員会 北海道小学校長会 北海道中学校長会
 釧路市小中学校長会 釧路校長会 北海道エネルギー環境教育研究委員会

4. 期 日 **令和8年10月30日(金)**

中央小学校 授業・分科会会場		13:10 13:35		14:20 14:30		16:00
		受付	授業公開	移動・休憩	授業および課題別分科会	分科会ごと解散
		【45分】		【90分】		
☆主会場		9:10 9:40	10:20	11:50 13:30	14:20 14:30	16:00
		受付	開会式 研究提言	講演 全体会閉会式 (諸連絡)	昼食・休憩	授業および課題別分科会
		【40分】	【90分】	【小45分、中50分】	【90分】	分科会ごと解散

5. 会 場

☆主会場 開会式、研究提言、 講演、全体会閉会式 6年、中学校3分野 授業・分科会会場	釧路市生涯学習センター まなぼっと 〒085-0836 釧路市幣舞町4番28号 Tel.0154-41-8181
○小学校 3年・4年・5年生 授業・分科会会場	釧路市立中央小学校 〒085-0026 釧路市寿1丁目2番16号 Tel.0154-23-3396

6. 参加費 4,000 円

7. 公開授業
授業者

学年・分野	授業者	所属
小学校3年	秋田 理玖 教諭	釧路市立大楽毛学園
小学校4年	江渡 明香 教諭	釧路市立清明小学校
小学校5年	工藤 崇之 教諭	釧路市立釧路小学校
小学校6年	本間 羅菜 教諭	釧路市立青葉小学校
中学校地理分野	澤田 康介 教諭	北海道教育大学附属釧路義務教育学校後期課程
中学校歴史分野	細野 歩 教諭	釧路市立鳥取西中学校
中学校公民分野	阿波 亮太 教諭	釧路市立春採中学校

8. 講 演

演題 『 未 定 』

講師 文部科学省初等中等教育局教育課程課・教科調査官 小 倉 勝 登 氏

9. 大会事務局・連絡先 〒088-2146 釧路郡釧路町鳥通西6丁目1番地 釧路町立遠矢中学校内

第81回北海道社会科教育研究大会 釧路大会運営委員会

事務局長 山 口 直 樹 Tel: 0154-40-3206

e-mail: toyachu@town.kushiro.hokkaido.jp

第81回 全道社会科教育研究大会 釧路大会 会場図

